



目指す子ども像 ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子ども

東目屋地区コミュニティ・スクール通信

第9号 平成29年11月24日 東目屋小・中学校 文責(佐藤)



小中一貫教育システム

先進校視察報告

東目屋中学校 教頭 須郷 祐一

関東方面が師走並みの寒さと風雨に見舞われた10月19日、小中一貫教育の先進校で、神奈川県の研究指定も受けている真鶴町立真鶴中学校を視察してきました。

真鶴町は神奈川県の西部に位置し、JR東海道線で東京駅から約2時間弱と首都圏にありながら、山と海に囲まれた自然豊かな街です。町名は、町の形が鶴の形のように太平洋に突き出ていることが由来となっているとのこと。人口は7千人余りで、漁業と石材（箱根火山噴出の熔岩でできた「本小松石」の産地）、観光が主な産業です。

神奈川県には33の市町村がありますが、その中で真鶴町は神奈川県唯一の過疎地域の指定の町であり、人口減少が激しいとのことでした。

真鶴中学校は、これまで真鶴町教育委員会の指導の下、小中一貫に幼稚園も加えて、幼小中一貫を実践してきました。ちょうど訪問した日の翌日に、幼稚園と小学校が中学校に集って『学習活動発表会』を行うということで、特に力を入れている「ふるさと学習」の展示物が飾られていました。

小中一貫に関しては、小学校の要望に応じる形で乗り入れ授業を行い、昨年度は理科、家庭科、美術、英語で実施したとのこと。よく見受けられるゲストティーチャーではなく、小学校の先生方と一緒に授業を作る形で進めているそうです。

今回の視察で特に目を引いたのが、学習ボランティアの活用です。視察した当日も、美術の木彫の授業に学習ボランティアと学習支援員が入り、担当教諭と合計3名で彫刻刀の使い方を指導していました。真鶴町では、学習ボランティアを積極的に活用するために、町でコーディネーターを置き、学校の要望に応じてボランティアを派遣するようにしているそうで、これから本格的にコミュニティ・スクールを推進していく上での参考となりました。

今回の視察では、真鶴中学校長、教頭、研修主任、真鶴町教育委員会指導主事の4名が対応してくださいましたが、その話の中で一番印象に残っていることが、「職員室の見える化」をどうするかということです。

真鶴町の小学校と中学校は隣接校ではなく、約1キロほど離れたところにあります。その距離を感じず、お互いの職員室の雰囲気分かるように、職員室・職員間の心理的な距離をいかに縮めるか、先生方がお互いに顔を知っている状況をどう作るかということが、小中一貫を上手く軌道に乗せる第一歩だと力説していました。

最後に、幼・小・中一貫の証として、幼・小・中の全教職員が、中学校の卒業式に出席して、生徒の姿を見届けるのが理想、「真の（幼・）小・中一貫」とも話していました。本校ではりんご栽培の「農園活動」を、真鶴中学校では「ふるさと学習」「防災教育」といった具合に、小中一貫やコミュニティ・スクールを進めるにあたっては、やはり軸となるメインのものが必須であると改めて感じました。





最後に中学生の合唱で終わりました

第1回小中学校合同音楽授業

10月27日(金)に東目屋小学校体育館で実施しました。保護者の方も5名参観しておりました。

最初に、小学校音楽担当中村先生から授業の流れについて説明があり、その後中学校音楽担当須郷教頭先生から合唱の姿勢や声の出し方、口の開け方など指導がありました。合唱曲は『COSMOS』(作詞・作曲 ミマス)で、全体で歌う回数を重ねるうちに盛り上がっていき、大変迫力のある合唱に仕上がりました。最後に、中学生が70周年式典で歌った『地球星歌～笑顔のために～』を小学生に披露しました。式典の時よりも声に伸びが感じられ、小学校の児童、先生方からは「すごい、感動した」という感想が寄せられました。

第2回合同音楽は同じく小学校体育館で12月6日(水)10:35～11:20を予定しています。

地域とともにある学校づくり 農園収穫 ご協力に感謝

10月17日にジョナゴールド、11月2日に王林、ふじの収穫を行いました。10月は東目屋、西目屋の小学生も参加しました。いずれもお忙しい中、地域、保護者の方にはトラックでの搬入、保管、市場への出荷など大変お世話になりました。また、11月の王林・ふじ収穫の際は、夜10時半頃まで選果作業(農園委員会の保護者、OBの方を含め13名)を行っていただきありがとうございました。

おかげさまで、今年度はジョナゴールド16箱、ふじ39箱、王林30箱を収穫することができました。

雪解け時の剪定作業から始まり、薬剤散布、人工授粉、摘花、実すぐり、袋掛け、草刈り、バヤ切り、葉とり、そして収穫まで、さまざまな場面でたくさんの方々からご協力いただき感謝申し上げます。

11月8日に、東目屋小の5・6年生と中学生は、自分たちの作ったりんごが競りにかけられる様子を見学するため、弘果に行きました。当日は、テレビ局も取材に来ており、1年生の米沢杏佳さんが「みんなが一生懸命心を込めて作ったりんごなので笑顔で食べてもらいたい」とインタビューに答えていました。

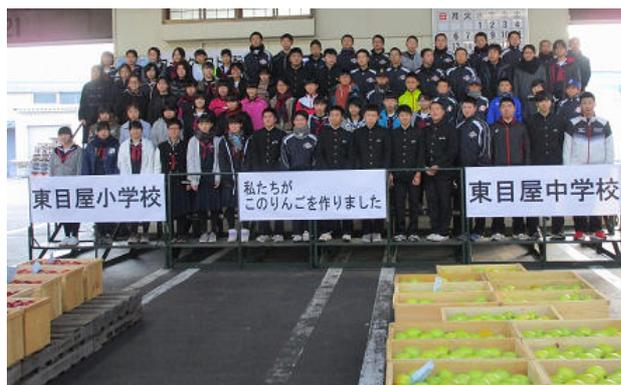
りんごを通して自分たちだけでなく、他の人にも収穫の喜びを分けてあげたい、そんな思いのこもったすてきなコメントだと思います。目屋の子ども達の優しさがわかります。



トラックは農園と学校を2往復しました



手際よく仕分けと箱詰めしていただきました



競り見学の様子はRABやABAでも放映されました